

## 平成28年度TQM発表会報告書

TQM推進部会

日 時：平成28年 7月28日(木)17:15～18:30

場 所：健診センター 2階大講堂

参加者：75名（診療部 3名 看護部40名 診療技術部26名 事務部 6名）

発 表：5 チーム 発表時間10分

◎=発表者

テーマ	チーム名	メンバー	発表内容
内服インシデントの減少	おヒヤリ減らそう隊 (2階病棟)	◎宮田智都美 黒瀬 裕美 福島 紀子 大久保建祐	一昨年同様課題で活動を行ってきたが、内服インシデントが減少しない現状がある。要因として確認不足が持続していたため、配薬手順の再教育、配薬手順のチェック、主要薬剤の勉強会等を行った結果、自己評価は54%から79%に上昇したが、インシデントは減少しなかった。
チーム間の支援体制への取り組み ～チーム間で支援できるようにするため～	助け合い隊 (3階東病棟)	◎豊胡 明美 沖土居純子 永田 寛子 田原ルミ子 段田 湖雪 加藤美和子	チーム間での支援体制ができていないという課題解決していくために、両チームの業務を理解し参画できる、他チームが支援してほしいことを理解し行動できることを目標に、それぞれの業務を明確にし、他チームの患者情報シートの作成、業務の勉強会を実施し支援ができないと答えるスタッフが28%から14%に半減した。
災害時の救急対応 ～生食返血と迅速な避難のできる体制づくり～	TSTチーム (人工透析室)	◎廣中 佑介 福永 恭子 池田 直子 田森 真弓 益田 量久	透析室ではスタッフの移動と透析装置の自動化により災害時の手動対応に対し不安があったため、マニュアル修正、その勉強会と全員の生食返血実技チェックを行い、災害対策が行えているという意識が高まった。
2階病棟緊急入院患者の退院調整をスムーズに行うための体制づくり ～人員配置・カンファレンス方法・記録様式変更による取り組みから～	他職種連携チーム (2階病棟 リハビリ科 地域医療連携室)	◎阿川 純子 崎元 直樹 高橋恵津子	高齢者の場合、退院調整が難渋してしまうケースが多くなってきている。個々の状況を把握し、早期からの退院調整を進めるための体制について検討した。ベッドサイドカンファレンスの実施、退院調整看護師役割を導入した結果、転院先の見込みと実際の一致率81%、在院日数22.5日となったが、退院調整看護師役割が取れなくなってからは、一致率57%、在院日数28日と下がってしまった。病棟専属看護師の存在は職種間の調整に関する中心的存在となり、患者家族への細やかな支援調整として重要であるといえた。
看護師管理による内服インシデント削減を目指して	はいやっく隊 (4階西病棟)	◎柿森 幸恵 田辺 千鶴 代入 汐理 船越 隆臣	内服インシデントは看護師管理のものが5割を占めている。その中で用法・包量間違い、情報収集不足による与薬忘れ、配薬後の内服確認忘れが8割を占めていた。対策として頻度の高い抗凝固剤の勉強会の実施、処方箋の確認テストの実施、情報収集は患者スケジュールで実施しインシデント数が8割削減した。

以上の発表を最初から聞いた方に上位1チームを選んでもらい投票、上位2チームが決定した。

1位 透析室/TSTチーム

2位 4西病棟